

トカイ地方のワイン産地の歴史的文化的景観(ハンガリー)



世界遺産の登録範囲に、ブドウ畑とワインセラー、町の他に、こんな場所も入っていました。古墳のようなこの建物、何だと思いませんか？一般公開されてないのですが、たまたま、入口が開いていて、息子が入ってしまいました。お父さんが、「いいよ、こっちに来なさい！」と地下の奥深くに入ったところ、なんと、ワインの樽が数個並んでいました。ここは、個人のワインセラーだったのです！お父さんは、樽からグラスにワインを注ぎ、試飲させてくれました。貴腐ワインではありませんでしたが、これぞ家庭の味。言葉も通じない外国人親子をこんな風にもてなしてくれる暖かさ。これも含めて、この時、ワインはこの地方の文化なんだと思いました！！決められた観光地だけでなく、むしろ、観光地以外の場所も探して行ってみる。すると、新しい出会いや発見がある。そこで自分なりの価値を見出した時にこそ、心から凄いと思える世界遺産に出会えるのです。

トカイ地方のワイン産地の歴史的文化的景観(ハンガリー)



トカイ地方には、どこまでも続く広大なブドウ畑があります。南向きの斜面で太陽の光をいっぱい浴びて育ちます。さらに、秋から冬にかけて、ここには濃い霧が発生。それが斜面の畑全体を覆い、湿気があることにより、貴腐菌が付着、通常よりも数倍甘く、芳醇な香りが濃縮されたブドウとなる訳です。そして、腐ったブドウだけを収穫していくので、すべて手作業で行われ、それを大きな樽に入れ、自然の重みで果汁が出るのをひたすら待ちます。プレス機などは一切使わず、昔ながらの製法が受け継がれているのです。

トカイ地方のワイン産地の歴史的文化的景観(ハンガリー)



トカイワインの美味しさの秘密は、ブドウだけではありません。ここは16世紀から続くという現役のワインセラー。発酵したワインは、樽で5~6年、瓶で数年寝かされます。中はヒンヤリしていて天然のクーラー。それに加えて、ベルベットのような黒カビが壁を覆っていました。これがもう一つの美味しさの秘密。湿気があって、熟成がうまくいっているという証なのです。トカイの地下には、ワインセラーが網の目のように張り巡らされていたと言います。

トカイ地方のワイン産地の歴史的文化的景観(ハンガリー)



ここでのお目当ては、もちろんテイスティング。6種類のワインを説明してもらいながら、少しずつ飲んでいきます。普通の白ワインから始まり、段階的に甘くなり、最後は高級貴腐ワインへ。色も透明から黄金色に変わり、夢を見ているようなリッチな甘さと香り♪ こんなに濃厚なワインは初めてです。ルイ14生は、「王のためのワインにして、ワインの王なり」と言って愛好したそうです。しかし、オスマントルコやオーストリアに支配されながらも守ってきてワインですが、第二次大戦後、危機を迎えます。社会主義となり、畑は国有化、手間のかかるトカイワインは敬遠されました。民主化の時代を迎え、復活したワインでもあるのです。トカイは国歌にも歌われています。トカイワインを知ることで、ハンガリーの歴史も見えてくるのです。タイトルの「歴史的文化的景観」とは、このことなのです。

武夷山(中国)



アモイから北へ飛行機で30分。「奇山秀水」と謳われる通り、いくつもの岩山とその間を縫って流れる川が水墨画のような景色を作り出す美しい場所です。9回カーブを描くという九曲溪を竹の筏で下ると、遠い昔にタイムスリップ。岩のあちこちに、古人が詠んだ漢詩が書かれていました。ここは自然と文化の両方の価値をもつ、複合遺産なのです。そして、もう一つの名物は、巨岩に守られるようにして作られる岩茶。昼夜の温度差が大きく、霧の出やすい地形、そして、岩のミネラル分を豊富に含んだ透き通った水が、美味しい茶葉を作るのだそう。5月の新茶の時期に訪れると、籠を頭に乘せた茶摘み女性とすれ違い、麓の村では茶葉を干す光景が見られました。ガイドさんに頼んで、地元の工場を見学。すると、ご主人が応接間でお茶を入れてくれました。その味といい、香りといい、手際と言い、最高！これが本場のウーロン茶か！！と感動しました。目でも舌でも感じられる世界遺産は、魅力的です。「目指せ！宇治茶の世界遺産」、何かここにヒントがあるかも？！

武夷山(中国)



「大紅袍」というお茶をご存じでしょうか？ 代々、皇帝に献上された究極の岩茶。その原木が、この奥にあるのです！ 340年以上の歴史をもち、新芽が紫色という茶葉は、2004年に20g、250万円の値段がついたそう。どんな原木かは、行った人のお楽しみです♪ 遊歩道の右側には数キロに渡って茶畑が続いていて、それに沿って流れる小川の水は透き通っていました。

武夷山(中国)



九曲溪を川下り。右の岩は「三姉妹」、左は「大王峰」など名前がついています。そこをゆったり川下り~と思いきや、流れが速いところでは、竹の間から水しぶきがグツグツと吹き出し、気持ちいい~♪ ただ、1つの筏に定員6名。個人で行くと、自分でメンバーを集めなければならないのです。私のガイドさんが、個人客に声をかけてくれて助かりました。さらに、「日本人なので...」とあって、前の席を譲ってもらえたのも有難かったかったです。